

リスク教育タスクグループの活動概要

日本リスク研究学会リスク教育タスクグループでは、参加型のリスク教育プログラムの開発と講師育成を含む教育の普及に取り組んでいる。講演型ではないアクティブラーニングを基本とした教育プログラムで、テーマを絞った短いプログラム（アクティビティ）の組み合わせによって、対象や目的に合ったプログラムを構成できる構造を目指している。現在は、リスクの基礎的な概念を伝えるための基礎的なプログラムの制作を行っており、主に以下の教育目標においてアクティビティを開発している。

- ・リスクは確率の概念であることを理解する。
- ・数値で表されるリスクの大きさが意識の中で理解できる。
- ・ヒューリスティクスとリスク認知のバイアスの存在を理解する。
- ・リスクが意志決定に利用できることを理解する。

また、制作したプログラムを用いてリスク教育を普及するため、市民が講師になる事ができるように指導者育成講習会を実施するほか、講師がアクティビティを使ってリスク教育を実施できるように、指導方法を記載した指導者マニュアルを制作中である。それに先だって、アクティビティの目的や内容の概要を記載した要旨集を発行する予定である。目次は以下の通り。

「アクティビティ要旨集(β版)」掲載予定アクティビティ (H28 春公表予定)

目次

1. 参加型講習会用アクティビティ

- ・白か黒か (リスクは確率であること、連続であることの理解)
- ・温故知新 (ハザードやリスクに関することわざを知る、先人の考え方を整理)
- ・痛い確率 (リスク用語の理解、意識の中の物差しづくり、エンドポイントとリスクの関係の理解)
- ・OK ゾーン (自分と他者のリスクの感じ方の違いを理解、受け入れ不可能の理由を理解)
- ・ADI とは (ADI の算出方法や意味の理解、ADI に基づく判断方法の理解)

2. 屋台型講習会用アクティビティ

- ・サイコロ積みランキング (リスクとベネフィットの間の意志決定、安全と危険の連続性の理解)
- ・シールでリスクマップ (他者との違いの理解、答えのない質問の存在と理解、脱ゼロイチ思考)

今後は、アクティビティの開発と検証を進めるほか、平衡して指導者マニュアルの制作発行、指導者育成講習会を開催していく予定である。